

# 京都府南部の縄文時代遺跡

長谷川 達

近年、京都府の南部地域においても、発掘調査等によって、縄文時代の遺構・遺物の検出地点が増加している。ここでは、旧山城国にあたる京都市及びそれ以南に地域を限定し、縄文時代の遺跡を整理する意味で現況に触れてみたい。

1972年に発行された京都府遺跡地図では、この地域で縄文時代に属する遺跡として11地点があげられているが、1988年に完結した第2版の京都府遺跡地図では、70か所に増加している。先土器時代の遺跡についても1972年には、京都市右京区の5か所だけであったものが30か所となっており、それぞれ6～7倍という数値となっている。この増加は、ここにとりあげる京都府南部地域に一樣なものではなく、平安京跡・長岡京跡を包括する京都市域及び京都盆地南西部の乙訓地域において特に顕著な傾向である。これは、両地域が当時、居住地としてすぐれていたという可能性も高いが、都城跡を対象とした綿密な発掘調査・立会調査等が続けられている結果として得られた資料も多い。

遺跡地図から引用した遺跡数は、石器の単独出土地等も含まれているが、別表・別図では縄文土器を出土した地点だけを記入したものである。それらの中には、遺構を伴い多量の遺物を出土している地点から数片の土器片だけの出土地もあるため、内容的には、大きな差がある。

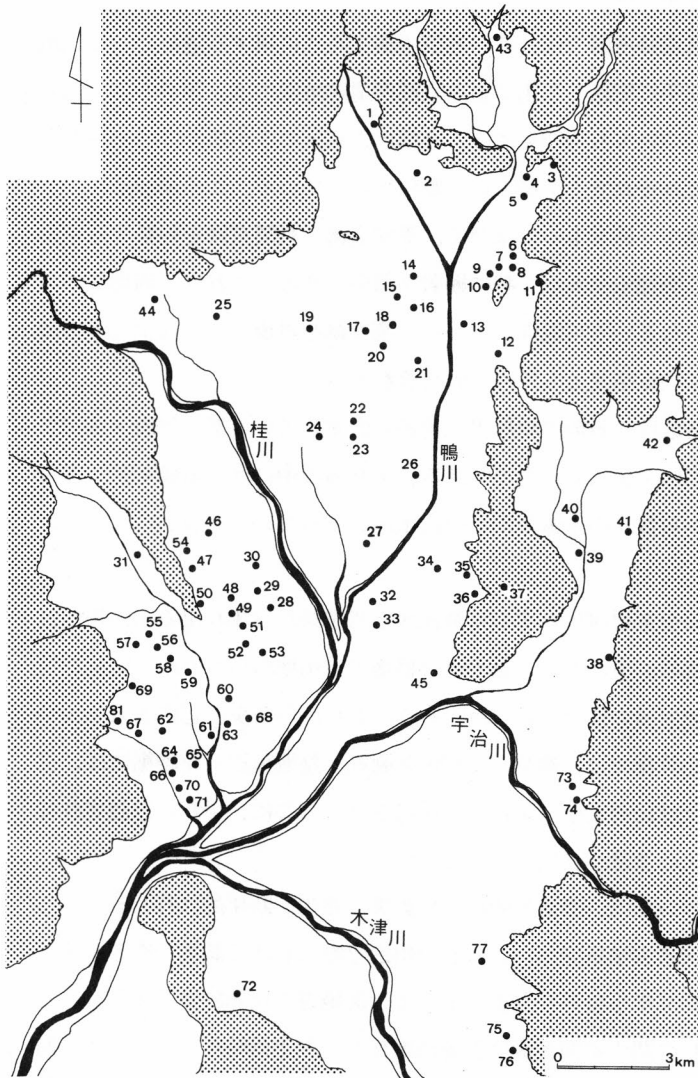
地域としては、鴨川・桂川を主要河川とする京都盆地と三重県から流れ出る木津川の流域及び琵琶湖からの宇治川流域にあたる。一見平坦な耕地や市街地が広がるが、前記の河川が合流して淀川となる大阪府境の標高が約10mであり、それから多少の起伏をもちつつ高度をあげ、京都市北部の丘陵裾では、標高70～80mを測る。盆地縁辺の丘陵裾には、洪積世の大阪層群を主体とした段丘や大小の扇状地が形成され、ここに、現在、確認されている多くの先土器・縄文時代の遺跡が立地している。

京都府南部の縄文時代については、明治年間から石器等の報告が断片的に行われているが、1923年の京都大学文学部考古学研究室による北白川追分町における試掘調査等がその嚆矢ともいえる。その後、1935年小倉町の調査によって近畿地方の代表的遺跡となり、それ以後もこの付近の縄文時代に関する調査例は着実に増加し、先土器時代にはじまり、時期によって地点を変えつつ縄文時代のほぼ全期間を通じて確認されている。遺構も京都大

学構内の調査を中心として、後期の配石・甕棺や晩期の土壇墓・埋没林・住居跡等多様な成果が報告されている。北は、修学院遺跡(3)から南は岡崎遺跡(12)付近まで、鴨川左岸の丘陵裾に形成された扇状地等に南北に連らなって立地する数多くの遺跡は、比叡山西南麓遺跡群とも総称されている。この遺跡群は、京都府南部の遺跡数が増加している中でも、現在にいたるまで、質量ともに最も充実した内容を持っている。No. 6・7・8・9の遺跡名については、表中では、地点別に町名だけを記しているが、前に北白川の地名を冠して用いられ、小倉町と別当町は合して遺跡名とされている。また、京都大学構内には、弥生時代以降、歴史時代にいたる遺構・遺物も多く、調査等の便宜上、京都大学北部・本部

・西部・教養部・医学部・病院構内遺跡の名称も重複して用いられている。

京都盆地の縄文遺跡は、比叡山西南麓遺跡群をはじめ、かつては、盆地周縁部にはほぼ限られる傾向があったが、近年、盆地中央部に近い鴨川以西でも確認例が増えてきている。盆地中央部は、平安京跡と重複し、遷都以来、大都市として機能し、土地の改変が続けられたため、もとの地形が失われていることに加え、多くの部分が鴨川・桂川とその間を流れる中小の河川の氾濫原であったとの想定も手伝い、長く注意を払われなかった側面があ



第1図 京都府南部縄文時代遺跡分布図

第1表 京都府南部縄文時代遺跡一覧表

番号	遺跡名	時期						番号	遺跡名	時期					
		早	前	中	後	晩	弥前			早	前	中	後	晩	弥前
京都市							向日市								
1	上賀茂	○		○	○			46	西ノ岡					○	
2	植物園北					○		47	物集女車塚周辺			○		○	
3	修学院	○						48	渋川					○	
4	沖殿町				○	○		49	森本				○	○	○
5	一乗寺向畑町	○			○	○		50	中野					○	
6	上終町	○		○	○			51	石田				○	○	
7	小倉町		○	○	○			52	鶏冠井			○	○	○	○
8	別当町		○		○			53	鶏冠井清水					○	
9	追分町		○	○	○	○	○	54	中海道						
10	吉田山西麓		○	○	○	○	○	長岡京市							
11	銀閣寺下層			○				55	上里				○		
12	岡崎			○	○	○		56	井ノ内				○		
13	聖護院西町				○			57	朝日寺				○		
14	同志社女子大学				○			58	今里			○	○	○	○
15	内膳町					○	○	59	今里北ノ町					○	
16	京都御苑春日町			○				60	馬場				○	○	○
17	二条城北					○		61	神足				○		
18	高陽院下層				○			62	十三				○	○	
19	西ノ京	○						63	芝本					○	
20	堀川院下層			○				64	友岡			○	○		
21	高倉宮下層		○			○	○	65	南栗ヶ塚					○	○
22	坊城町				○	○		66	碓	○		○	○	○	
23	鴻臚館下層			○				67	下海印寺	○		○	○	○	
24	衣田					○		68	雲宮					○	○
25	蜂ヶ岡中学校		○					69	長法寺						
26	烏丸町					○		70	奥海印寺						
27	上鳥羽				○			大山崎町							
28	東土川				○			71	下植野南					○	
29	東土川西					○		72	松田						
30	中久世				○			八幡市							
31	大枝	○						73	ヒル塚下層		○				
32	鳥羽					○		宇治市							
33	下鳥羽	○		○			○	74	寺界道					○	
34	深草				○			75	隼上り	○					
35	深草坊町					○		城陽市							
36	谷口					○		76	芝山				○		
37	馬谷					○		77	森山				○		
38	日野谷寺町			○	○			78	丸塚古墳下層						
39	勸修寺				○			田辺町							
40	中臣			○	○	○	○	79	興戸					○	
41	大宅			○	○	○	○	井手町							
42	芝町					○		80	鳥休		○	○	○		
43	岩倉忠在地							山城町							
44	広沢西裏							81	湧出宮		○				
45	金森出雲														

る。しかし、平安京跡等の歴史時代を対象とした調査が進められる中で縄文時代の遺構・遺物の出土地点も徐々に蓄積されてきている。鴨川の近傍では、北は同志社女子大学(14)付近から点々と後・晩期の遺物等が出土し、高倉宮下層(21)では、晩期の土壌等も検出されている。この付近には、弥生時代の遺跡もあることから、現在の烏丸通に沿って、鴨川西岸に遺跡の立地しやすい自然堤防等の存在が指摘されている。遺物の分布状況・地形の起伏・湧水点の存在等から京都盆地中心部にも草創期以降、点々と縄文時代の集落の存在したことが類推できるが、現在までまとまった資料は得られていない。

京都盆地南西部で桂川の西側に位置する乙訓地域でも、長岡京跡の調査が進む中で、縄文時代に関する資料の増加が著しい。主な遺構を検出した遺跡としては、長岡京市の井ノ内(56・後期・竪穴住居)、下海印寺(67・後期・集石・土壌)、向日市の中野(50・晩期・竪穴住居)がある。3遺跡とも丘陵または、丘陵縁辺の低段丘上に立地する遺跡である。友岡(64)では、包含層出土ながら、この地域で類例の少ない中期の土器資料が検出されている。沖積地部分では、比較的古くから知られていた弥生時代の遺跡の中で確認される場合も多い。森本・鶏冠井・今里・雲宮などがそれにあたり、晩期から弥生時代前期へと、ほぼ繋がる出土状況をしている。標高約13mの沖積地に立地し、調査回数と比較的多い鶏冠井遺跡の成果から見ると、断続的ながら縄文中期末から古墳時代初頭にかけて、集落が周辺環境の変化に応じて微高地を移動していく様子が想定復原されている。しかし、これらの遺跡の遺物出土状況は、その大半が旧自然流路や沼沢地状堆積層から検出されており、小土坑等はあるものの住居跡等は、現在までのところ確認されていない。

京都盆地から小丘陵を隔てた東側で、宇治川に流入する山科川等によって形成された山科盆地でも縄文時代の遺跡確認数は少ないものの、中臣遺跡には、後・晩期の甕棺墓、近年調査された日野谷寺町遺跡では、多くの遺物とともに住居跡に伴うと考えられる3基の石囲炉をはじめ、集石・配石を伴う各種の土坑があり、明確な生活の痕跡が検出されている。さらに南の宇治川・木津川流域では、高低はあるものの台地上に立地する7地点が知られているが、面積に比べると、その遺跡数は極めて少ないといえる。しかし、城陽市森山遺跡では、後期の住居跡が6基あり、これまで京都府における明確な縄文時代住居跡の最も多い検出例となっている。京都盆地最南部には、1940年代に干拓され、その姿を消すまで、木津川・宇治川・鴨川・桂川など京都府南部の主要河川の全てが流入する巨椋池が存在していた。この池の消長については必ずしも明確ではないが京都盆地南部の縄文遺跡がこの池と不可分であったとも考えられるが、その周辺に位置する遺跡は現在まで不明である。全域を通じて各時期をみると、草創期については、有舌尖頭器等の分布によって、京都府南部全域にその痕跡を求めることができるが、土器は検出されておらず、石器も大

半が単独出土である。早期では、修学院遺跡で押型文土器とそれに後続する条痕文土器が比較的まとまって出土しているが、ほかの遺跡は押型文土器の1～数片にとどまっている。分布は、盆地縁辺の丘陵裾部が多いが、西ノ京遺跡(19)は中央部に位置している。前期は、比叡山西南麓遺跡群で顕著であり、山城町の湧出宮(81)でも確認されているが、空白部分が多い。中期になると遺跡数は増加するが、その内容をみると多くは中期後半から末の時期であり、前半の遺物は限られている。後期・晩期はさらに遺跡数が増え、分布範囲も広がり、それに伴い遺構の検出される地点も増加し、より標高の低い沖積地に立地する遺跡が増加する傾向が現れる。縄文時代晩期の遺物と弥生時代前期のものが、混在あるいは、同一遺跡内から出土する場合も多く、現在12か所を数えている。

ここでとりあげた地域における縄文時代の遺跡は、数字でみる限り、約10年ともいえる短期間に飛躍的に増加している。京都盆地の面積に対して、この遺跡数は多いともいえるが、一部の遺跡を除いて内容の乏しいものであり、この地域の縄文時代の様相を復原するまでには至っていない。南部では、地表下10数mから出土した中期に相当する樹木やボーリング調査による地表下約7～8mの有機物を含む地層の存在などが伝えられ、当時の景観を含めた復原も考慮しなければならない。

(はせがわ・いたる=京都府教育庁指導部文化財保護課)

#### 〈主要参考文献〉

- 『京都の歴史1 平安の新京』京都市 1970年  
『史料 京都の歴史 第2巻考古』京都市 1983年  
『平安京跡発掘資料選(二)』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1986年  
「旧石器・縄文時代の京都」『京都市考古資料館文化財講座資料』1990年  
『中臣遺跡発掘調査概要』京都市文化観光局・(財)京都市埋蔵文化財研究所 1982年  
『京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所  
昭和57年度 「中臣遺跡51・52次調査」 1984年  
昭和59年度 「日野谷寺町遺跡」 1987年  
昭和60年度 「大宅廃寺」、「白河街区1」(聖護院西町) 1988年  
『平安京左京三条四坊四町』京都文化博物館調査研究報告 第2集(高倉宮下層) 1988年  
「京都帝国大学農学部敷地ノ石器時代遺跡」『京都府史跡勝地調査会報告 第5冊』京都府 1923年  
「京都市北白川小倉町石器時代遺跡調査報告」『京都府史跡名勝天然記念物調査報告 第16冊』京都府 1935年  
『京都大学埋蔵文化財調査報告Ⅲ—北白川追分町縄文遺跡の調査』京都大学埋蔵文化財研究センター 1985年  
『京都大学構内遺跡調査研究年報』昭和51・53・54・57・59年度 京都大学埋蔵文化財研究センター 1977～1990年  
『向日市史 上巻』向日市 1983年

- 『京都府乙訓地方の石器—資料篇』乙訓の文化遺産を守る会 1971年
- 『長岡京跡発掘調査研究所調査報告書 第1集』長岡京跡発掘調査研究所 1979年  
「長岡京跡右京14・15次調査報告」(碓遺跡)
- 『向日市埋蔵文化財調査報告書』向日市教育委員会・(財)向日市埋蔵文化財センター
- 第10集「長岡京跡左京第82次調査」(鶏冠井遺跡) 1983年  
第18集「長岡宮跡第152次調査」(中野遺跡) 1986年  
第21集「長岡京跡左京第150次調査」(石田遺跡) 1987年  
第22集「長岡京跡左京第156次調査」(鶏冠井遺跡) 1987年  
第29集「長岡宮跡第141・143次調査」(森本遺跡) 1990年  
第30集「長岡京跡左京第169・227次調査」(鶏冠井遺跡)(石田遺跡) 1990年
- 『長岡京市文化財調査報告書』長岡京市教育委員会
- 第10冊「京都府長岡京市下海印寺遺跡範囲確認調査報告書」 1982年  
第14冊「長岡京跡左京第23次調査概要」(芝本遺跡) 1985年
- 『長岡京市埋蔵文化財センター年報』(財)長岡京市埋蔵文化財センター
- 昭和60年度「右京第214次調査概要」(井ノ内遺跡) 1987年  
昭和61年度「右京第235次調査概要」(井ノ内遺跡) 1988年  
昭和62年度「左京第176次調査概要」(馬場遺跡)、「奥海印寺遺跡第2次調査概要」 1989年  
昭和63年度「右京第325次調査略報」(友岡遺跡) 1990年
- 「寺界道遺跡発掘調査概要」『宇治市埋蔵文化財発掘調査概報』第10集 宇治市教育委員会 1985年
- 「森山遺跡発掘調査概報」『城陽市埋蔵文化財調査報告書』第6集 城陽市教育委員会 1977年
- 「湧出宮遺跡の縄文人」『第5回特別展示図録 山城町の歴史と民俗』京都府立山城郷土資料館 1990年
- 『山城町史 本文編』山城町役場 1987年